

はじめに

テーブルコーディネートというどんなイメージを思い浮かべますか？

パーティーや結婚式の会場、外国の家の食卓、テーブルがきれいに飾られたきらびやかなイメージ……そんな声がよく聞かれますし、私自身も最初はそうに思っていました。

そして、自分自身には無縁なものであると。

ところが、ご縁のなかったテーブルコーディネートと私の人生があるとき交差をし、そこからその魅力に取り憑かれた私の時間は動き出し、ライフスタイルは一変したのです。

あつという間に没頭したのは、テーブルのセッティングルール、コーディネートの色やスタイルの勉強、テーブルアイテムの素材と種類のカテゴリーごとの勉強、フラワーアレンジメント、テーブルを中心とした歴史、紅茶やワインなどの資格取得、などなど。それ以降は

テーブルコーディネート教室を開き、現在もそれを行っています。

テーブルという長方形の世界には（形は丸いものもあり、大きさもまちまちですが）、女性の好きなものがいっぱい詰まっています。

名高いメーカーたちの陶磁器のお皿、きらきら光るガラス製グラス、重厚感あるシルバーのカトラリー、手触りのいいリネンのクロスやナプキン……こういったアイテムの魅力に加え、フラワーアレンジメントやカラーコーディネートのも。もちろん、料理自体もその要素のひとつです。

そして何よりも、〃人と集う・人を招く〃ことが好きな女性にとっては、自分の好きを存分に楽しみながらゲストの方々に喜んでいただくことができるという、これほどに魅力的な世界はないのではないかしらとまで思うのです。

ただ……。

私がテーブルコーディネートを好きになった理由としてあげるとすれば、こういったことはもしかしたら表面的なことではしかないかもしれません。

もっと深いところにあるもの……、テーブルコーディネートを学び、その後約9年、ロンドンとニューヨークでレッスンを行い、600以上のテーブルを作り、これらの経験のなかでしだいに気づくようになっていったことがあるのです。

それは、私にとって「何が幸せなのか、それはどこからくるのか」ということ、そして「どう幸せになっていきたいのか」ということです。

テーブルコーディネートという、生活を楽しむひとつのツールを通して、いつのころからかそのようなことに思いを馳せるようになっていました。

別の言い方をすれば、テーブルが私に幸せとは何かを教えてくれたということです。

もちろんこれは、私にとっての答えであり、誰にでも当てはまるものではないと思っています。

それでも、私がレッスンをするモチベーションは、この思いに根付いているということを感じているのです。

教室を開いた背景には、それを伝えたいという思いがあります。いえ、伝えたいという積極的なことではなくて、伝わっていたらいいなぐらいの願望でしかないかもしれません。

それがいつもあったからこそ、テーブルコーディネートノウハウだけにはとどまらないレッスンを！ という私なりのゴールにつながっているのではないかと思います。

本書では、無縁と思っていたテーブルコーディネートが、人生を豊かにしてくれる欠かさない存在となり、さらに、こんなに楽しいものを独り占めしておくのはもったいないからと人に教えるものにまでなっていた、その魅力について触れていきます。

その過程を通して、私が気づいた幸せやそのいきさつ、そしてレッスンの根底に流れる思いについても話していきたいと思います。

もちろん、作ってきた数々のテーブルとそのエピソードも楽しんでいたただけなら嬉しいです。

読み終わったときに、「なんだか幸せを感じることで、それほど難しくもないのかも」と思ってもらえたとしたら、そのことがこの本を書いた私の一番の幸せになると思っています。